

私の履歴書

いわむら 英郎

19

リパブリックでの研修を二月で切り上げ、欧州に回ったが、そこで見たものは新しい製鋼技術である転炉だった。当時、製鋼だけとて見ると、米國よりも欧州のほうがすぐと技術水準は高かった。

転炉導入

「もう、平炉の時代は終わりのしるしであるのではな

いか

そいつら思いが弊るばかりだった。だが、現実はこの切り替えが必要な時間がかかってしまった。

二十九年一月に操業を始めた千葉製鉄所の平炉はかなり高い生産性を上げていた。六七時間の精錬時間が常識だった時代に、何と二時間十分で鋼を作るの、月産十八万と、う破天荒な世界記録を立てた。米國

工場の一角から、突然、声が上が

精錬時間十分の一に

デッキに鈴なりの人「万歳」

「もう、平炉の時代は終わりのしるしであるのではな

「もう、平炉の時代は終わりのしるしであるのではな

「もう、平炉の時代は終わりのしるしであるのではな

平炉に比べ、転炉の生産性は控えめにみても五、六倍、ひよっとすると十倍近くも高かった。

「社長、転炉を導入しましょう」

「それ、クレーンだ」「鍋はななて」という雰囲気が強かった。現場はたちまち修羅場になる。ス、古いタイプの技術者に平炉へのケジメも何もあつたものではな

「そのいわれも無いのに、転炉は

「社長の、転炉を導入しましょう」

新しいものに挑

戦することへのち

うちよほど、人

の目を曇らせるも

のはい。

LD転炉導入に

はあくまでも急先鋒となって、進言

を続けた。平炉、転炉の生産性、品質、コストの利害得失を挙げて、随

分説明した。

「よし、もうい、

」

LD転炉導入に

はあくまでも急先鋒となって、進言

を続けた。平炉、転炉の生産性、品質、コストの利害得失を挙げて、随

分説明した。

「よし、もうい、

」

LD転炉導入に

はあくまでも急先鋒となって、進言

を続けた。平炉、転炉の生産性、品質、コストの利害得失を挙げて、随

分説明した。

「よし、もうい、

」

LD転炉導入に

はあくまでも急先鋒となって、進言

D転炉の技術は日本鋼管がオーストリアのアルピネ社とアジアも含めた日本での特許権を持っていた。結局、日本鋼管に五百萬ほどの特許費用を支払い、導入に踏み切ったのである。

昭和三十七年四月十三日、千葉製鉄所の転炉工場が完成、初出鋼した。第三高炉からきた溶銜が投入される。吹錬が始まる。酸素は噴流となって、鉄をたたき鍛えた。そして、白熱した鋼の滴が生まれた。

デッキに鈴なりの人々から思わす「万歳」の音がわき起こり、全員が感激の握手を交わした。午前十一時。精錬の所要時間はわずか十七、八分である。

製鋼の主流は平炉から転炉へと急速に変わっていった。当社では四十五年八月をもって、すべての平炉工場が操業を休止した。今、日本の鉄鋼会社には、平炉は「毒も残っていない」。

わが国鉄鋼業界の発展に転炉の導入は大きな役割を果たしたと言えるだろう。

(川崎製鉄会長)